

年頭所感（「山口経済レポート」）

日本銀行下関支店長 竜田 博之

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年の山口県の景気は、化学を中心に生産が堅調に推移したほか、設備投資が増加しました。また、個人消費も、緩やかに持ち直す等、基調としては回復の状況が続けました。

本年も、国内外の経済環境の改善が見込まれる中で、山口県の景気は回復基調を辿る見通しです。今夏は東京オリンピック・パラリンピック開催でインバウンド需要の拡大が見込まれており、当県でも「交流人口」拡大に繋がる体制整備が着々と進められる予定です。また、県では「やまぐち維新プラン」において「関係人口」の創出・拡大に向けた取り組みへの支援策を国に要望しています。

本年の干支（庚子）は、新たな環境に向けて体制を整えていくと良い年のようにです。「交流人口」や「関係人口」拡大に繋がる新たな体制整備を進めつつ、皆様にとって本年が実り多い 1 年になることを心より祈念いたします。